



2019年(令和元年)7月オホーツク管内倒産集計

令和元年8月6日

株式会社 東亜リサーチ

北見市常盤町3丁目16番42号

Tel (0157) 23-6288

Fax (0157) 24-1033

7月は6年連続で発生ゼロ 累計負債総額はほぼ半減

今年2度目の発生ゼロ

■前月比	件数	5件減少(令和元年6月)	5件)
	負債総額	3億9,500万円減少("	3億9,500万円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	同数(平成30年7月)	0件)
	負債総額	同数("	0円)

令和元年7月の発生状況

令和元年7月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は、発生がゼロだった。

これは前月と比較すると件数が5件、負債総額で3億9,500万円の各々減少。発生のなかった前年同月比では同数となった。

7月は最盛期入りの時期であるため、例年発生が抑制されてきた月ではあるが、特に26年から30年の直近5年間は連続して発生がない状態にあり、今年も発生ゼロとなったことで6年連続となった。なお、月間発生ゼロは4か月振りである今年2度目となる。

過去5年間と今年1～7月の発生推移

今年1～7月の発生累計は件数で9件、負債総額は6億4,590万円。前年同期と比較すると件数で1件、負債総額は4億9,810万円の減少となった。過去5年間の発生推移は【下・表】の通りで、平均件数は10.2件、同負債総額は12億5,760万円。下半期に入ったものの、発生は一桁台に止まっているため件数は前年及び平均値を下回る一方、発生した9件の内7件が1億円未満の負債額であり、負債総額は前年と比べほぼ半減、過去5年間では最低の金額に止まる。

地区別発生では北見市6件、紋別市・美幌町・雄武町が各1件。業種別では卸・小売4件、建設2件、飲食・ホテル・車輜・運輸が各1件。主要因別では販売不振が5件、計画失敗・放漫経営・過当競争・その他各1件。表面化別では法的処置5件、弁護士一任3件、二回目不渡り1件となっている。

過去5年間と今年1～7月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
26年	8件	11億5,400万円
27年	7件	11億600万円
28年	11件	22億1,700万円
29年	15件	6億6,700万円
30年	10件	11億4,400万円
元年	9件	6億4,590万円

今後の見通しと問題点

6月に今年最多となる5件の倒産が発生し、下半期のスタートである7月の動向が注目されたものの、発生ゼロに止まり、低水準を保った。しかし、管内企業は人手不足の影響によって人件費のコストが膨らんでいるなか、10月には最低賃金の改定があり、更に負担が増加する可能性がある。加えて消費税増税を10月に控えているが、当社集計では上半期の管内住宅新設件数は前期比8.6%減。新車登録台数は前期比0.3%増に止まるなど駆け込み需要は無いに等しい。これからの暮らし向き悪化への警戒感が強まっており、消費者心理の低下が顕著。消費の基調そのものが弱まっている可能性がある。低水準にある管内倒産件数なのだが、懸念材料は多く、景気は後退局面入りが鮮明となりつつあるなか、倒産件数は底打ちする可能性もあり、秋口からの動向が注目される。



令和元年月別倒産件数・負債額

年月別	件数	負債額
1月	1件	5,400万円
2月	1件	8,700万円
3月	0件	0円
4月	1件	1,890万円
5月	1件	9,100万円
6月	5件	3億9,500万円
7月	0件	0円
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
合計	9	6億4,590万円
30年合計	10	11億4,400万円
前年対比	▲1	▲4億9,810万円

1～7月企業形態別倒産件数

企業形態	30年件数	元年件数
株式会社	4	6
有限会社	3	3
特殊法人	0	0
個人	3	0

1～7月倒産表面化要因別件数

企業形態	30年件数	元年件数
法的処置	6	5
2回目不渡り	1	1
弁護士一任	3	3
その他	0	0

1～7月主要因別倒産件数

主要因	30年件数	元年件数
販売不振	9	5
回収難	0	0
過当競争	0	1
連鎖	0	0
計画失敗	0	1
放漫経営	0	1
旧債重荷	0	0
代表死亡	1	0
その他	0	1

1～7月地区別倒産件数

地区	30年件数	元年件数
北見市	5	6
網走市	2	0
紋別市	2	1
常呂郡	0	0
網走郡	0	1
斜里郡	1	0
紋別郡	0	1

1～7月業種別倒産件数

業種	30年件数	元年件数
農・林・漁業	0	0
建設	1	2
製造	2	0
卸、小売	4	4
サービス	1	0
飲食・ホテル	1	1
車輛	1	1
運輸	0	1
燃料	0	0
その他	0	0